

島根大学 生物資源 科学部

生命科学科

農林生産学科

環境共生科学科

“いのち”あふれる地球を育む



2024
学部案内



豊かな自然に接し、 生き物の素晴らしさを 共に学ぼう

島根大学 生物資源科学部長

上野 誠 | UENO Makoto

島根大学生物資源科学部は、松江市の中心に位置し、湖、山、海などのフィールドが身近に存在する自然豊かな環境です。

生物資源科学部では、「生命科学」、「農林生産」、「食料」、「農業経営・経済」、「生態環境」、「生物資源の利活用」、「環境保全・管理」をキーワードとして、人間・社会・自然に関する幅広い教養や理学や農学に関わる基礎的な知識を身に付け、地域や国際社会で活躍できる人材の育成を目指して、研究・教育を行ってきました。

現在、本学部は「生命科学科」、「農林生産学科」、「環境共生科学科」の3学科と附属生物資源教育研究センター（演習林、農場、臨海実験所）で構成されており、専門知識と技能を講義だけでなく、室内実験、フィールド実習、グループ学習などで幅広く身に付けることができます。また、より高度な研究・教育を希望する学生には大学院進学の手も用意されています。

生物資源科学部では、島根の豊かな自然とフィールドを活かした研究・教育を通じて、地域や世界の発展と持続可能な社会構築を目指す、みなさまをお待ちしております。

沿革

1947年 ● 島根県立農林専門学校設置

1949年 ● 新制島根大学設置

1965年 ● 島根県立島根農科大学を国立移管し、農学部を設置

1971年 ● 大学院農学研究科を設置

1995年 ● 農学部と理学部を改組し、生物資源科学部を設置

2000年 ● 大学院生物資源科学研究科を設置

2004年 ● 国立大学法人島根大学となる

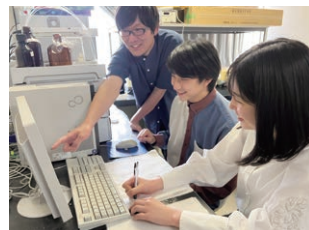
2008年 ● 生物資源科学研究科5専攻体制から3専攻体制に改組

2012年 ● 生物資源科学部を5学科体制から4学科体制に改組

2018年 ● 生物資源科学部を4学科体制から3学科体制に改組

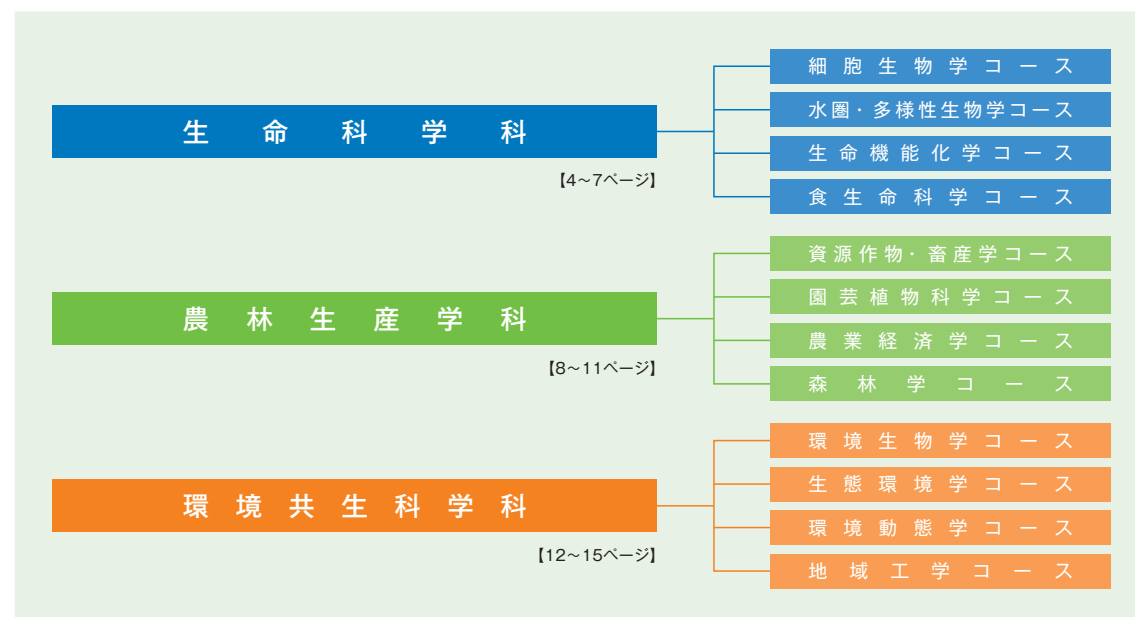
生物資源科学研究科と総合理工学研究科を改組し、自然科学研究科（博士前期課程）を設置

2020年 ● 自然科学研究科（博士後期課程）を設置



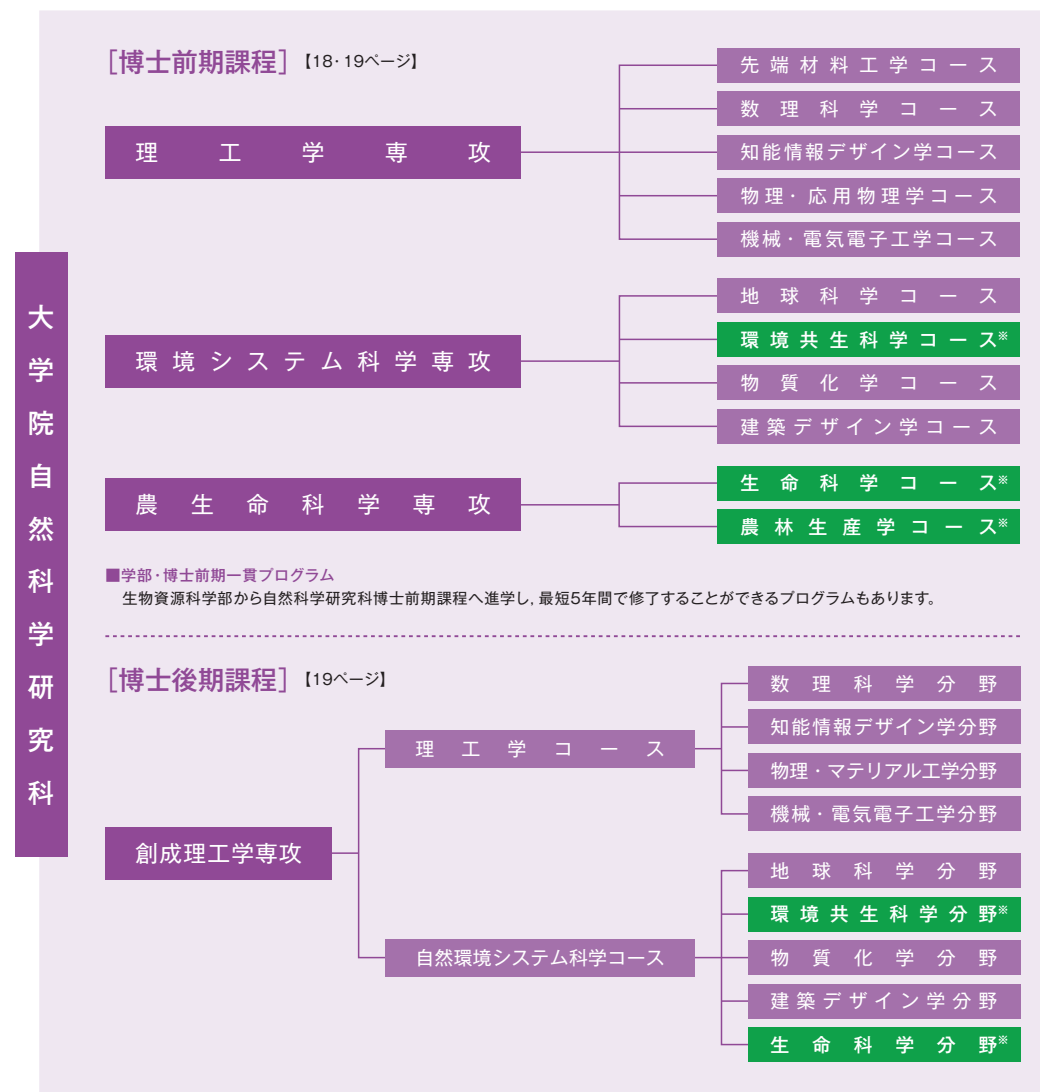
生物資源 科学部 の構成

3つの学科と附属センターで
構成されています



大学院 の構成

専門性を磨くために
大学院への進学も可能です



鳥根大学大学院連合農学研究科「博士課程」

※生物資源科学部の各学科からは、博士前期課程のうち主に環境共生科学コース、生命科学コース、農林生産学コースへの進学となります。
続けて博士後期課程へ進学した場合は主に環境共生科学分野と生命科学分野への進学となります。

生命科学科

Department of Life Sciences



生命科学の探求

生命科学科では、微生物から動物・植物に至る多様な生物が示す様々な生命現象についての基本的な理解と根本原理の解明をめざすとともに、これら生物が有する様々な有用機能を食品・化学工業、医薬・農薬製造業などの生物・化学産業に役立てるための教育と研究を行います。生命現象の不思議さを追求し応用する過程を通し、論理的思考力、問題解決能力を身に付け、社会で活躍するための資質能力を向上させることができます。

- 卒業後の進路
- 大学院進学(修士・博士課程)
 - 中学・高校教員
 - 国家・地方公務員
 - 教育・研究機関職員
 - 製薬・食品会社
 - 環境関連産業
 - 動物及び植物などを扱う関連施設(水族館・動物病院・多機能型牧場など)
 - 食品、医薬、化学工業、農林水産業などの技術者、研究者

活躍する卒業生

大塚食品株式会社
琵琶湖研究所
富井あやめさん
2021年(令和3年)3月 生命科学科卒業
2023年(令和5年)3月 自然科学研究科修了



現在、大塚食品の琵琶湖研究所で勤務しています。企業理念の「食は心にはじまり「美味・安全・安心・健康」を創る」をもとに、独自の食素材の開発や製品化に携わっています。

学部・大学院では、摂取タンパク質由来の腸内細菌代謝産物に着目し、研究していました。研究室では、職務でも役立つ様々なスキルの習得に加え、研究し続けることの大変さややりがいを感じる多くの経験ができました。大学生活では思うようにいかないこともあると思いますが、周りには親身に相談に乗ってくださる先生や先輩がいます。全力で学び、楽しんでください。

教育の特色

concept

生命科学科では、生命科学の基礎から応用までを幅広くしっかり学べるように、授業の種類を豊富に用意しています。1年次には基盤科目や生命科学基礎セミナーで基礎学力を涵養し、さらに2年次からは特色のある4つの教育コース「細胞生物学」、「水圏・多様性生物学」、「生命機能化学」、「食生命科学」のうちのいずれかの教育コースを選択することで、より専門的な知識を身に付けることができます。「細胞生物学」と「水圏・多様性生物学」の2コースは連携しており、生物学を基礎とした理学的教育に重点を置いた生物系カリキュラムを提供します。生物系2コースは、附属生物資源教育研究センター海洋生物科学部門(隠岐臨海実験所)と連携しており、実験所の教員の指導のもとで卒業研究を行うこ

ともできます。一方、「生命機能化学」と「食生命科学」の2コースも連携して、生物学と化学を基礎とし、生命の仕組みを食品・化学工業、医薬・農薬製造業などの生物・化学産業へと応用可能な農芸化学的教育に重点を置いた生命工学系カリキュラムを提供します。また、生命科学科は、総合科学研究支援センター遺伝子機能解析部門と教育・研究で連携しており、センター教員の指導が受けられる学際的卒業研究も行っています。



「選べる4つの教育コース」

■細胞生物学コース

細胞生物学コースでは、細菌や原生動物から動植物まで幅広い分類群を対象とし、それら生物が示す様々な生命現象を分子・細胞・組織・個体レベルで捉え、理解する能力を育み、ライフサイエンスの発展に寄与し、様々な分野で活躍する人材を育成することを目標にしています。生物の分子・生理・発生機構の分析を通して、現象の背後の論理を理解し、「How」に答えるための論理的な思考能力・観察能力・洞察能力などを養います。

■生命機能化学コース

生命現象は、生命体内に存在する多様な分子の働きが複雑に組合わさることで引き起こされます。そのメカニズムを生物と化学の両方の視点から理解し、有用な機能として医薬系や化学系の分野に応用する知識と技能を有した人材の育成を目指します。生物学、化学及びその融合分野の基盤的・専門的科目を重点的に履修します。

■水圏・多様性生物学コース

日本海から宍道湖・中海を含む湖沼河川まで多様な水域とその周辺の陸環境がもつ豊かな生物多様性を基礎科学の観点から捉え、理解する能力を育み、生物資源の持続・有効利用と環境保全に寄与し、この分野を牽引する人材を育成することを目標にしています。生物多様性の進化・維持機構及び生態系における多様性の機能を実験・観察・数理的分析を通して理解することで、「How」や「Why」に答えるための論理的な思考能力を養います。

■食生命科学コース

食品に含まれる栄養成分や有用成分を人体が活用する仕組み、食料の生産に寄与する生命の仕組みなど、食に関係する生命現象を理解し、食品やバイオテクノロジーの分野に応用する技能を有した人材の育成を目指します。生物学と化学に関する基盤的科目に加え、食品、栄養、微生物、細胞培養などに関する専門科目を履修します。

カリキュラム

curriculum

生命科学科では、1年次に自然科学系学部共通科目及び基盤科目を履修した後、2年次からは、生物学を主体とする2コース(細胞生物学コース、水圏・多様性生物学コース)及び生物学と化学を主体とする2コース(生命機能化学コース、食生命科学コース)のいずれかのコースに所属して専門教育を学びます。3年次後期からは各研究室に配属され、卒業研究の実施に向けた活動が始まります。



履修モデル

	1年次	2年次	3年次	4年次
細胞生物学	全学共通教育科目			卒業研究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目(生物学、微生物学他)	専門科目 (発生物学、植物生理学、動物生理学、免疫学、植物分子生物学、形態形成学他)		
	基礎セミナー	実験／セミナー	実験／セミナー	
水圏・多様性生物学	全学共通教育科目			卒業研究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目(生物学、化学、動物学他)	専門科目 (水圏・多様性生物学特論、生態学通論、水圏生態学、進化遺伝学、海洋生物学、多様性植物学他)		
	基礎セミナー	実験／セミナー	実験／セミナー	
生命機能化学	全学共通教育科目			卒業演習 卒業研究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目(化学、基礎有機化学、物理化学他)	専門科目 (生命機能化学特論、化学生物学、植物光合成生物学、生物有機化学、生命分子分光学、分子認識工学、農業生物制御化学、バイオシグナル工学他)		
	基礎セミナー	実験／セミナー	実験／セミナー	
食生命科学	全学共通教育科目			卒業演習 卒業研究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目(生物学、植物学、微生物学他)	専門科目 (分子生物学、食生命科学特論、食品微生物学、食品衛生学、食品機能学、食品バイオテクノロジー、細胞工学、遺伝子工学他)		
	基礎セミナー	実験／セミナー	実験／セミナー	

★選べる4つの教育コース【生命科学科】

細胞生物学コース

ミクロな視点から 生命現象を科学する

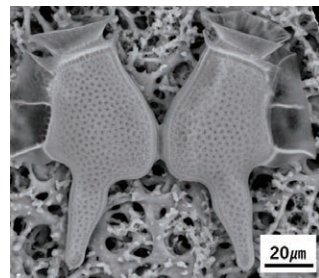
1年次には基盤科目を中心に履修し、生物生命科学の幅広い範囲の知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して細胞・遺伝子・タンパク質など、ミクロな視点から生物を理解するための実験技術を修得します。これらの学びを通して科学的思考と方法論も身に付けていきます。3年次の後期には研究室分属が決定し、4年次の卒業研究では、植物・動物・微生物の分子・生理・発生・細胞機構における研究を行い、ミクロな視点から生命現象の謎に迫ります。

【細胞生命の研究】

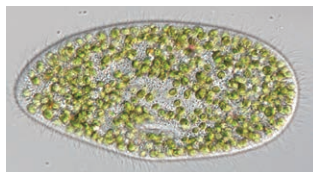
モデル植物における分子の役割、動物の網膜の分子生理機構、両生類の再生・変態・細胞死、毛周期、原生生物の細胞運動、細胞内共生の成立機構、脊椎動物の体液調節機構、イネによる土壌浄化など、分子・細胞・組織レベルの生命現象に関する研究を行っています。



■生物科学実験の実習風景



■渦鞭毛藻類ディノフィシス



■ミドリソウリムシ

取得可能な資格
●教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
●学芸員
●食の6次産業化プロデューサー

水圏・多様性生物学コース

マクロな視点から 生命現象を科学する

1年次には基盤科目を中心に履修し、生物生命科学の幅広い範囲の知識を学びます。学年が進むと、より専門的な講義を履修するとともに、実習を通して行動・生態・進化など、マクロな視点から生物を理解するための実験・野外調査・理論の技術を修得します。これらの学びを通して科学的思考と方法論も身に付けていきます。3年次の後期には研究室分属が決定し、4年次の卒業研究では、隠岐諸島や宍道湖をはじめとした山陰の生態系にみられる動植物の進化・生態学的研究を行い、マクロな視点から生命現象の謎に迫ります。

【進化・生態の研究】

動植物の遺伝的分化・系統進化、島嶼生物の保全遺伝、環境DNAを用いた生物モニタリング、頭足類や哺乳類の生殖機構、生物多様性の進化・維持機構の理論分析など、個体から生態系レベルまでの生物現象について進化・生態学的な研究を行っています。



■基礎生物科学実験の実習風景



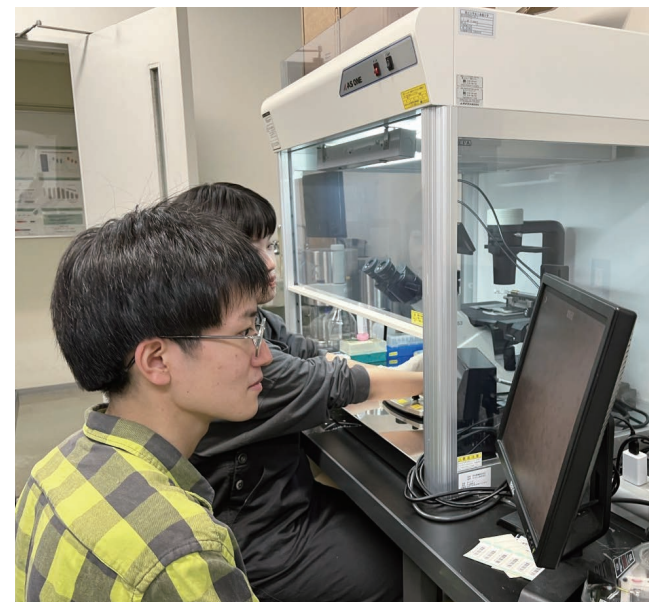
■博物館実習

取得可能な資格
●教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
●学芸員
●食の6次産業化プロデューサー

生命機能化学コース

分子レベルで 生命現象を解明する

2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。生物学と化学の融合領域として化学生物学、植物光生理化学、生物有機化学、農業生物制御化学、分子認識工学などを、また、応用領域として細胞工学、バイオシグナル工学などを履修します。一方で、この間、基礎から専門に至る12種類の実験科目を受講します。3年次後期から研究室に分属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、生体分子に関する分子分光学的研究、分子が互いを識別する原理の解明、脱皮・変態・休眠・相変異などの昆虫内分泌の解明、神経伝達物質受容体に作用する新規リガンドの合成、昆虫幼若ホルモンの作用機構、活性酸素種の代謝、植物におけるビタミンCなど抗酸化物質の合成や生理作用、補酵素の代謝調節機構などの研究が活発に行われています。大学院生はもとより、4年生が学会発表することも珍しくありません。



■ユーグレナ



■次世代シーケンサー

取得可能な資格
●教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
●食品衛生監視員 ●食品衛生管理者
●食の6次産業化プロデューサー

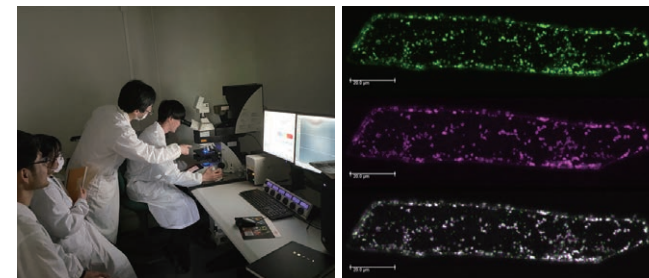
食生命科学コース

食に関わる 生命現象を解明する

2年次から本コースに入り、3年次前期までに種々の専門科目を学びます。食の生命科学に関する基礎領域として、食生命科学特論、食品生化学、食品衛生学、食品微生物学、栄養生命科学などを、また、応用領域として食品バイオテクノロジー、食品機能学、細胞工学、栄養シグナリングなどを履修します。生命機能化学コースと共通の12種類の実験科目も受講します。3年次後期から研究室に分属し、卒業研究に向けた活動が始まります。本コースでは、動物培養細胞を用いた生理活性物質の作用機構、脂溶性機能性食品成分の生体利用性、脂肪酸由来生理活性物質の生合成機構、コエンザイムQ10の生合成機構と機能、腸内細菌・乳酸菌の生理機能、酵母のストレス応答と細胞周期、食品機能性成分を増強した植物の開発、穀物の栄養成分の蓄積機構などの研究が行われています。学生が学会で研究発表することもよくあります。



■タマネギ細胞のタンパク質の蛍光バイオイメージング実験



取得可能な資格
●教育職員免許状(高等学校一種(理科), 中学校一種(理科))
●食品衛生監視員 ●食品衛生管理者
●食の6次産業化プロデューサー

農 林 生 産 学 科

Department of Agricultural and Forest Sciences



農林業による豊かな暮らしの実現

農林生産学科は、農林業生産による豊かな人間生活の実現を目指して、農産物及び林産物に関する持続可能な生産技術と経営・経済について教育と研究を行う学科です。資源作物・畜産学、園芸植物科学、農業経済学、森林学の4つの教育コースからなる本学科では、相互に連携したカリキュラムにより農林生産学全般を広く学びつつ、各コースの専門的な知識・技術の修得を図ることができます。自然、生物、食に関して興味がある人を求めており、将来、農林業自営、JAなどの農林業団体の職員、種苗・食品・医薬・環境・機械などの農林関連企業における技術職・営業職、国や地方の公務員、中学・高校の教員などとして活躍されることを期待しています。

- 卒業後の進路
- 大学院進学（修士課程・博士課程） ●中学・高校教員
 - 国家・地方公務員
 - JA、森林組合、林業公社、食品、種苗、飼料、農業、医薬、機械、住宅設備、造園、環境コンサルタントなどの農林関連企業・団体、農林自営業

活躍する卒業生

全農大分県本部
営農開発部 営農対策課
鈴木 悠仁 さん
2019年(令和元年)3月 農林生産学科卒業
2021年(令和3年)3月 自然科学研究科修了



私は他大学（短大）から島根大学に3年次編入後、大学院2年生まで施設園芸学研究室でサクラの挿し木繁殖に関する研究を行い、令和2年度に修了しました。

在学中は、研究を通して専門的な知識と課題解決能力を学ぶことができ、私の人生の糧になったと思います。

現在は全農職員として大分県の農業関係の業務に携わっており、近年急速に進んでいるスマート農業に力を入れています。農業の最先端の知識とニーズ調査が必要とされており、様々な知識とコミュニケーション能力が重要であると感じています。

島根大学で学んだことを活かし、県内の農業を発展・活性化できるよう関係機関と連携しながら日々業務を遂行しています。

教育の特色

concept

豊かな自然環境に恵まれた山陰地域という立地条件を活かしたフィールド学習を含む幅広いカリキュラムを通して、農林業とそれを取り巻く生態系と地域社会について総合的に学びます。さらに、農林生産学を代表する4つの教育コースのうちの1つを選択する2年次からは、先端的研究を行う教員による専門的な講義、実習、卒業研究の指導を通して、深い知識と高い技術を身に付け、農林業、食品、医薬、環境、地域、学術研究などに関わる将来の進路選択に備えます。



「選
べ
る
4
つ
の
教
育
コ
ー
ス」

■資源作物・畜産学コース

人の主なエネルギー供給源となるイネなどの資源作物及び家畜の肉、乳の安定的な供給と持続可能な生産を目的とした理論、技術を修得し、作物・動物の生産に特化した専門的な知識と理解を深め、それらに関する応用力を養うと共に、地域の農畜産物の生産現場に合わせた食料生産の向上を視野に入れた講義、実習、実験を行います。

■農業経済学コース

農と食のマーケティング、6次産業化、農家経営、農業の担い手、アグリビジネス、地域活性化、地域資源管理、途上国発展など、食料、農業、農村をめぐる諸事象について総合的に理解し、社会科学の視点から独自に考察・提案できる能力を備え、国内、国外、農村、都市を問わず持続可能な地域社会の創造に貢献できる人材を育成します。

■園芸植物科学コース

果物、野菜、花などの園芸植物を材料とし、植物資源開発、植物工場、園芸植物利用における専門知識について教育すると共に、地域の自然環境を活かした園芸植物の効率的生産、品質改良、6次産業化などに関するフィールド実習及び研究を網羅した特色ある教育を行うことで園芸生産や利用分野で活躍する技能を有した人材を育成します。

■森林学コース

私達の暮らしに欠かせない森林・林業について教育と研究を行います。森林の育成と保全・計画、林内環境、森林利用のための林業機械、地理情報システム・GPS・ドローン・人工衛星を利用した森林の調査と管理、森林を取り巻く政策・経済、再生可能なエネルギー利用、野生動物管理など、森林を総合的に学ぶことができます。

カリキュラム

curriculum

農林業に関する広い視野を育む基礎セミナー及び実習から専門的な学びがスタートします。4つの教育コースに分かれる2年次からは、選択したコースの講義や実験・実習・セミナーを主に履修することにより、専門的な知識と技術の修得を目指します。また、各人の興味に合わせて、他コースの多様な講義やフィールド系の実習・セミナーなども履修します。4年次には、修得した知識や技術を活用し、発展させる力を養成する卒業研究に取り組みます。



「履
修
モ
デ
ル」

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
資源作物・畜産学	全 学 共 通 教 育 科 目			英語演習 卒業研究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目（資源作物・畜産学概論他）	専 門 科 目 （作物学, 家畜栄養学, 植物栄養化学, 資源作物学, 耕地栽培学他）		
	基礎セミナー・実習	実 験 ／ 演 習	専攻演習／専攻実験／特別研究	
園芸植物科学	全 学 共 通 教 育 科 目			英語演習 卒業研究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目（園芸生産学概論他）	専 門 科 目 （果樹園芸学, 野菜園芸学, 花卉園芸学, 植物育種学, 施設園芸学, 六次産業化概論他）		
	基礎セミナー・実習	実 験 ／ 演 習	専 攻 実 験	
農業経済学	全 学 共 通 教 育 科 目			卒論演習 卒業研究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目（農業原論, 経済原論他）	専 門 科 目 （農業経済学, 農業経営学, 農政学, 食と農の地域学, アグリバイオビジネス学他）		
	基礎セミナー・実習	セ ミ ナ ー ／ 演 習	卒 論 演 習	
森 林 学	全 学 共 通 教 育 科 目			卒業演習 卒業研究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目（植物学, 統計学他）	専 門 科 目 （森林計画学, 森林ジオインフォマティクス, 森林利用学, 林政学他）		
	基礎セミナー・実習	実 験 ／ 演 習	実 験 ／ 演 習	

★選べる4つの教育コース「農林生産学科」

資源作物・畜産学コース

農畜産物の生産性向上を通して 人類の食を支える

国内外の農業は、地球温暖化に伴う環境変動、生産者の高齢化、関税の引き下げ・自由化に伴う国際競争といった多様で深刻な問題を抱えています。資源作物・畜産学コースでは、人類の主たるエネルギー供給源となるイネ、ダイズ、サツマイモなどの資源作物やウシやヒツジといった家畜に焦点を当てて、こうした自然・社会環境の変化に起因する農業問題の解決に貢献できる人材を育成します。1, 2年次において講義、実験、実習を通して農畜産物の生理・生態的特性や管理技術など、生産に必要とされる専門知識、理論、技術を学んだ上で、3, 4年次からは気象、土壌などが収穫量や品質に及ぼす影響の解析、有用微生物を利用した栽培技術の開発、動物の栄養・生理的な特性の究明、家畜飼料の開発、肉・乳の効率的生産及び品質向上を目指した研究に取り組みます。



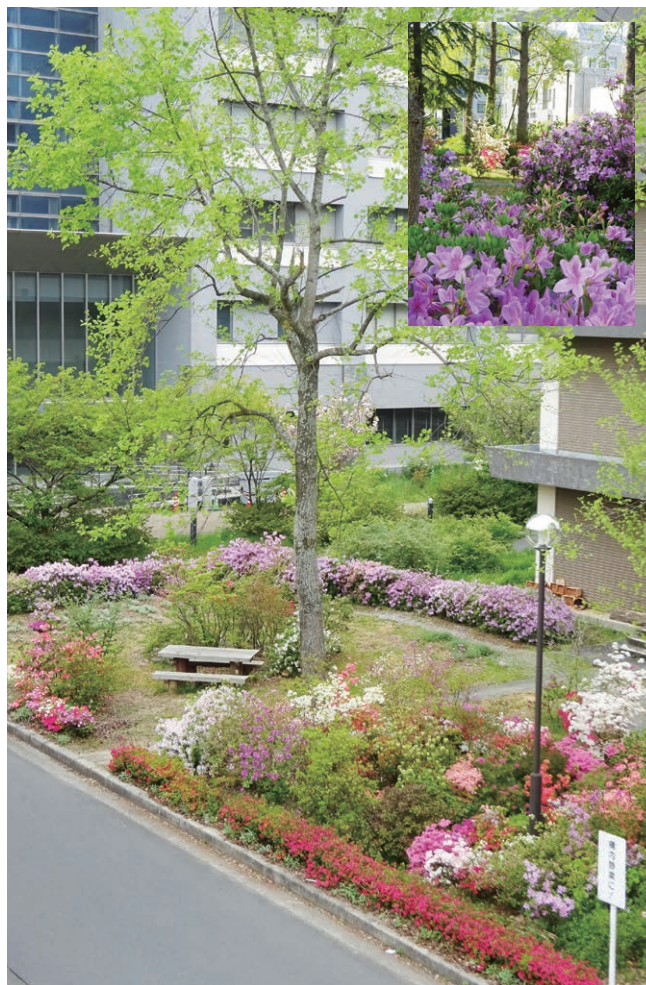
取得可能な
資格

- 教育職員免許状（高等学校一種（農業・理科）、中学校一種（理科））
- 食の6次産業化プロデューサー

園芸植物科学コース

園芸植物の 高付加価値化の実現

人々が豊かな生活を送る中で、園芸作物に対する色、形、香り、そして食味などの様々なニーズが増加しています。また、消費者の健康や食の安全、地域ブランドに対する関心の高まりもあります。園芸植物科学コースでは、ブドウ、カキ、メロン、イチゴ、ダイコン、トマト、サクラ、ツツジといった果物、野菜及び花を主な対象とし、栽培管理・作型、育種・遺伝資源、貯蔵・加工、機能性・特産品開発などについて学びます。1, 2年次において講義、実験、実習を通して園芸植物の生理学や遺伝学の基礎的知識をはじめ、育種法や栽培技術に関する専門知識を学びます。3年次からは課題研究に取り組み、栽培試験や品質調査をはじめ、機能性成分分析や遺伝子解析なども行い、園芸植物の品種開発や高付加価値化に向けた栽培・加工技術の改良を目指します。



取得可能な
資格

- 教育職員免許状（高等学校一種（農業・理科）、中学校一種（理科））
- 食の6次産業化プロデューサー

農業経済学コース

食と農の現場を解明し問題解決に 貢献する文理融合型の農学

学部の中で唯一、社会科学を広く学ぶことができるコースです。1, 2年次には、農業経済学の基礎知識の習得に加え、フィールドワークで農業・農村の現場を体験し、社会調査の基礎を学びます。2, 3年次には、食・農業・農村の問題解決に向けた経済学・経営学・政策学・社会学・歴史学などの応用理論を学びます。3年次からは、各自の関心や目的に適った研究室に所属し、教員の指導の下、学生自らが研究テーマを設定し、フィールド調査や文献調査を行い、科学的分析・論考を重ねて、卒業研究にまとめていきます。

基盤科目で自然科学の科目を広く選択できる他、農学に関する科目を専門科目として履修でき、農業関係の職に就きやすいように配慮されています。また、文系・理系両方の分野を学んだことを就職活動の強みにすることもできます。



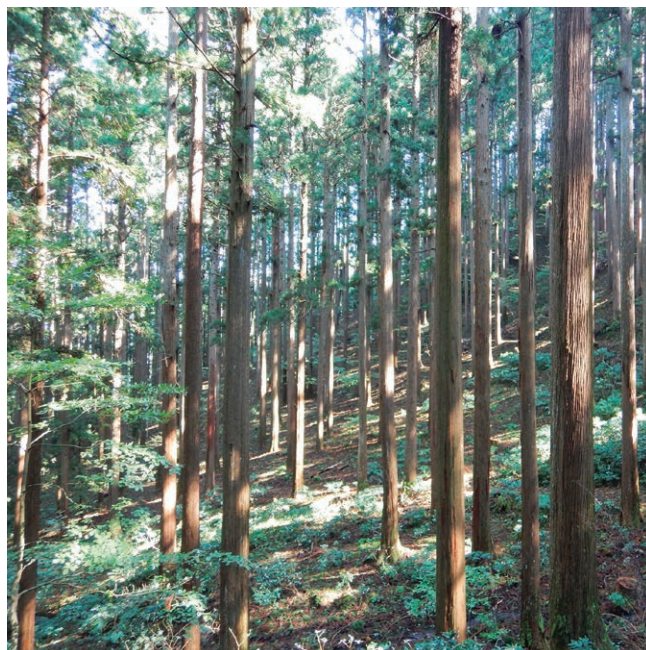
取得可能な
資格

- 教育職員免許状（高等学校一種（農業・理科）、中学校一種（理科））
- 食の6次産業化プロデューサー

森林学コース

森林の育成と保全、 林業の発展に貢献する

1年次には大学4年間の基盤となる科目と共に、農林生産学科の入門科目を履修します。2年次になるとコースに所属し、森林学の講義に加え、大学の演習林や地域のフィールドに出て実習を行います。それは3年次になるとより専門化し、一方で、専門と専門を繋いだ応用編としての実習に引き継がれます。同時に、セミナー形式で自らの興味を掘り下げていき、卒業研究のテーマを考えていきます。本コースは、卒業研究を必修としています。3年次の前期から卒業研究の計画を始め、調査・研究を行い、4年次の秋に中間発表、冬に卒業論文を書き上げ、最後に4年間の成果として発表会を行います。森林学を総合的に学び、自ら卒業研究に取り組むことで、森林・林業関連の公務員、事業者の職員として必要な力を身に付けることができます。



取得可能な
資格

- 教育職員免許状（高等学校一種（農業・理科）、中学校一種（理科））
- 森林情報士（森林GIS部門）
- 食の6次産業化プロデューサー

環境共生科学科

Department of Environmental and Sustainability Sciences



環境調和型社会の構築を目指して

環境共生科学科では、土・水・生物などの資源と環境を適切に保全・管理しつつ持続的に利用していく環境調和型社会の構築や、その実践のために必要となる専門知識や技術に関する科学と工学の両観点からの教育を重視します。学生の皆さんは、2年次から環境生物学・生態環境学・環境動態学・地域工学という、互いに重なり合いつつも特色ある4つの教育コースに配属され、多角的な視点から、地域の持続的な発展に貢献する様々な手法の修得を目指します。就職先には公務員、教員、機械・電機系の会社、IT関連企業、食品関連の会社、建設会社、技術コンサルタント会社、環境コンサルタント会社などがあります。

卒業後の進路

- 大学院進学(修士課程・博士課程)
- 中学・高校教員
- 国家・地方公務員
- 環境調査、緑化、水処理、食品、機械、建設、ソフトウェア開発などの各種企業や団体

活躍する卒業生

島根県隠岐支庁農林水産局
林業振興・普及第一課

世古 大貴 さん

2022年(令和4年)3月 環境共生科学科卒業



島根県職員(林業職)として隠岐地域で働いています。県では「伐って、使って、植えて、育てる」循環型林業を進めており、その中の「植えて、育てる」にあたる森林整備や苗木生産に関する現地指導などに携わっています。

大学では森林学を専攻し、樹木根について卒業研究を行いました。実際に現場で学べたことは自然豊かな島根だからこそ出来たことであり、現職を志すきっかけになりました。また振り返ると、研究を通して培った自然科学的思考や課題解決能力は業務をやり遂げるツールとして活きており、環境共生科学科で大きく成長させていただきました。

教育の特色

concept

入学後に、まず共通の基礎となる科目を学んだ後、2年次に教育コースを決定します。そして各コースの発展的な科目や応用的な科目へ進んでいき、身近な生物や環境問題を科学的に捉える方法や、実社会で使われている工学を学ぶと共に、問題解決に必要な広い視野と実践的な技術を養います。環境共生科学科の全教員が4つ全てのコースに関わるため、幅広い内容が学べます。



「選べる4つの教育コース」

■環境生物学コース

中山間地域の森林・里山から農耕地を経て、河川・汽水域に至る広域な環境に生息する生物を対象とします。植物の病気発生機構、昆虫の利用や防除、自然界での微生物の働き、森林の健全な育成と保全などに注目し、その生命現象と多面的な意義について履修します。持続的な農業や生物資源の利活用を目指し、環境と生物、生物と生物の相互作用に関する知識と研究手法を修得します。

■環境動態学コース

地域資源循環型社会の構築を目指し、地域資源を有効かつ持続的に利用するための、また、人間活動と共存できる生態系を保全・修復するための知識と技術を履修します。土、水、大気、生物及び人工物を介した物質の移動や循環をミクロ及びマクロの視点から理解・制御する方法や、水や土環境を保全・修復する工学的手法を修得します。

■生態環境学コース

ヒトと自然の共存や生態系の保全を目指し、生物が生息する水・土環境で生じる多様な現象とそのメカニズムを科学の視点から理解するための知識と方法について履修します。山・川・湖沼・海を含む流域を対象に、水域では水生生物と生息環境・水質・水文に関して、陸域では森林・草地や農耕地の調査・評価方法を修得します。

■地域工学コース

農村地域や中山間地域が有する地域資源を有効に活用して、地域の豊かな生産環境・生活環境・自然環境を創造・管理・保全するための専門的な基礎学力と技術を、工学的な観点から修得します。また、科学技術が公衆や環境に及ぼす影響(有用性と危険性)並びに責務といった技術者倫理や、必ずしも解が1つではない課題にアプローチするエンジニアリング・デザインについても履修します。

カリキュラム

curriculum

環境共生科学科では、各学生が2年次に4つの教育コースから1つを選択します。各コースの科目は互いに特色を有しつつも、密接に関わっています。

「履修モデル」

	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
環 境 生 物 学	全 学 共 通 教 育 科 目			卒 業 演 習 卒 業 研 究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目	専 門 科 目 (植物病理学概論, 環境昆虫学, 森林土壌学, 農業環境科学, 森林生態学, 共生微生物学他)		
	基礎 セミナー・実習	実 験 / 実 習	専 攻 実 験	
生 態 環 境 学	全 学 共 通 教 育 科 目			卒 業 演 習 卒 業 研 究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目 (植物学, 基礎土壌学他)	専 門 科 目 (水環境保全学, 水圏生態学, 植物栄養生態学, 汽水域生態学, バイオマス利用学, 水質環境工学他)		
	基礎 セミナー・実習	実 験 / 実 習	専 攻 実 験	
環 境 動 態 学	全 学 共 通 教 育 科 目			卒 業 演 習 卒 業 研 究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目 (物理学, 水環境学他)	専 門 科 目 (応用数学, 環境分析化学, 水環境保全学, 水と緑の環境工学, 植物環境工学他)		
	基礎 セミナー・実習	実 験 / 演 習	専 攻 実 験	
地 域 工 学	全 学 共 通 教 育 科 目			卒 業 演 習 卒 業 研 究
	自然科学系学部共通科目 基盤科目 (基礎水理学他)	専 門 科 目 (土壌物理学, 土質工学, 構造力学の基礎, 水理学, 流域水文学, かんがい排水学他)		
	基礎 セミナー・実習	実 験 / 実 習	専 攻 実 験	

【豊富な専門講義で幅広く学ぶ】

- 水環境保全学 ●水圏生態学 ●汽水域生態学 ●水質環境工学 ●地域計画学
- 水と緑の環境工学 ●バイオマス利用学 ●構造力学 ●水質水文学
- かんがい排水学 ●農地保全学 ●水利施設工学 ●環境昆虫学 ●共生微生物学
- 植物保護学 ●森林生態学 ●森林土壌学 ●森林水文学



★選べる4つの教育コース【環境共生科学科】

環境生物学コース

自然環境中の 多様な生物を科学する

環境生物学コースに分属した学生は、2年次に植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態環境学の専門科目と実験を履修します。3年次になると、1、2年次に学んだ知識と技術を生かして植物病理学、昆虫生態学、微生物生態学、森林生態環境学のいずれかに関する研究課題に各個人で取り組み、4年次に卒業研究として成果を発表します。本コースでは、特に3年次以降に、他学科の専門科目を含む極めて多彩な科目の中から各自の興味、将来設計、就職希望などに適した科目を自由に選択できます。



取得可能な
資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●学芸員 ●樹木医補
- 食の6次産業化プロデューサー

生態環境学コース

人と自然の共存や 生態系の保全を目指す

生態環境学コースでは、生物や生態系に関する基礎知識に加え、それらが息する水圏や土壌圏の特徴について学びます。基礎的な科目として統計学、生態学、水環境学、基礎土壌学などを履修し、続いて水圏生態学、汽水域生態学、植物環境工学といった発展的な内容の科目を履修します。これらに加えて、生態系などに関する調査を行うための基礎的な知識や、豊かな自然を守っていくために必要な技術を修得するため水環境保全学、環境分析化学実験、水質環境工学などの科目を履修します。また、4年次に行う卒業研究の準備として、外書講読、生態環境科学実習や専攻実験といった実習や実験が用意されています。



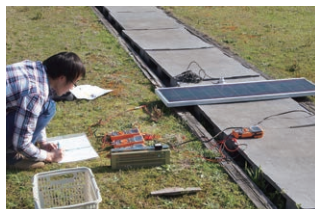
取得可能な
資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●学芸員
- 食の6次産業化プロデューサー

環境動態学コース

地域資源循環型社会の 構築を目指す

豊かな自然環境と快適な人間生活の共存を実現するために、動的に変化していく自然環境や生態系を調べて理解するための知識と、資源を浪費しない地域社会を実現するための技術を学びます。自然界の物質循環を理解するために、環境分析化学、水環境学、基礎水理学、水質水文学、基礎土壌学、土壌物理学、環境分析化学実験などの科目を履修し、また、生態学、水圏生態学などを通して生態系に関する基礎的な知識を得ます。さらに、農地工学、農地保全学、かんがい排水学、水質環境工学、バイオマス利用学などを履修することで、地域での快適な生活を実現する技術について学びます。そして地域計画学などで得た知識を基に、自然環境と人間生活のバランスの取り方に関する考え方を修得します。



取得可能な
資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補
- 食の6次産業化プロデューサー

地域工学コース

地域資源の 有効活用を目指す

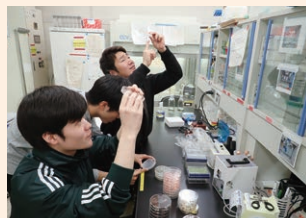
土・水・社会基盤からなる地域資源を整備、維持することで、良好な地域社会を実現するための知識と技術を修得します。良質な農地を実現できる知識を学ぶために、土壌物理学、農地工学、農地保全学、測量学などを履修します。また、水理学、流域水文学、水質水文学、かんがい排水学などの科目を通して、農地へ水を供給するための知識を修得し、土質工学、構造力学、水利施設工学などを学ぶことで、機能的な社会基盤を実現するための知識を得ます。さらには地域計画学、エンジニアリング・デザイン演習などの科目によって、各種の実験・実習で知識の定着と技術の修得を図ります。



取得可能な
資格

- 教育職員免許状(高等学校一種(理科・農業), 中学校一種(理科))
- 自然再生士補 ●測量士補
- 食の6次産業化プロデューサー

★教育コースに関係なく進められる4つの研究分野



環境共生科学科の教員は、自然環境と人間生活をより良い形で共存させるために様々な研究を行っています。4つの分野に分かれ、それぞれが特徴的な研究を進めていますが、最終的な目標は同じです。学生は3年次に卒業研究の指導教員を決定し、その教員の指導の下で卒業研究を行い、卒業論文にまとめます。選択している教育コースに関係なく、希望する分野の教員の指導を受けることができます。

【環境生物学分野】環境生物学分野では、環境と生物、生物と生物の相互作用に注目し、生物の多様な生命現象の解明を通して、生物多様性に支えられた豊かで持続可能な農業や生物資源の利活用を目指しています。植物の病気発生機構と防除、昆虫の生態や利用と防除、自然界での微生物の働きの解明と利用、森林の健全な育成と保全などに関する基礎から応用までの幅広い研究を行っています。

【生態環境工学分野】生態環境工学分野では、良好な自然の保全や、すでに失われた自然環境を取り戻すための学問である生態工学をベースに、水環境及び土壌環境の保全修復に取り組んでいます。特に水生生物の調査、微生物や吸着剤による水処理、劣化土壌での持続的生産、有機性廃棄物の有効利用、土壌を用いた水処理などの研究を行っています。

【生物環境情報工学分野】生物環境情報工学分野で

は、環境と生物の関わりを調べて活用する研究、物質の時空間分布や偏在の情報を収集・予測し環境改善する研究や、生物を構成する物質や個体群のパターンをもたらす因子を明らかにし、その情報を応用する研究を行っています。

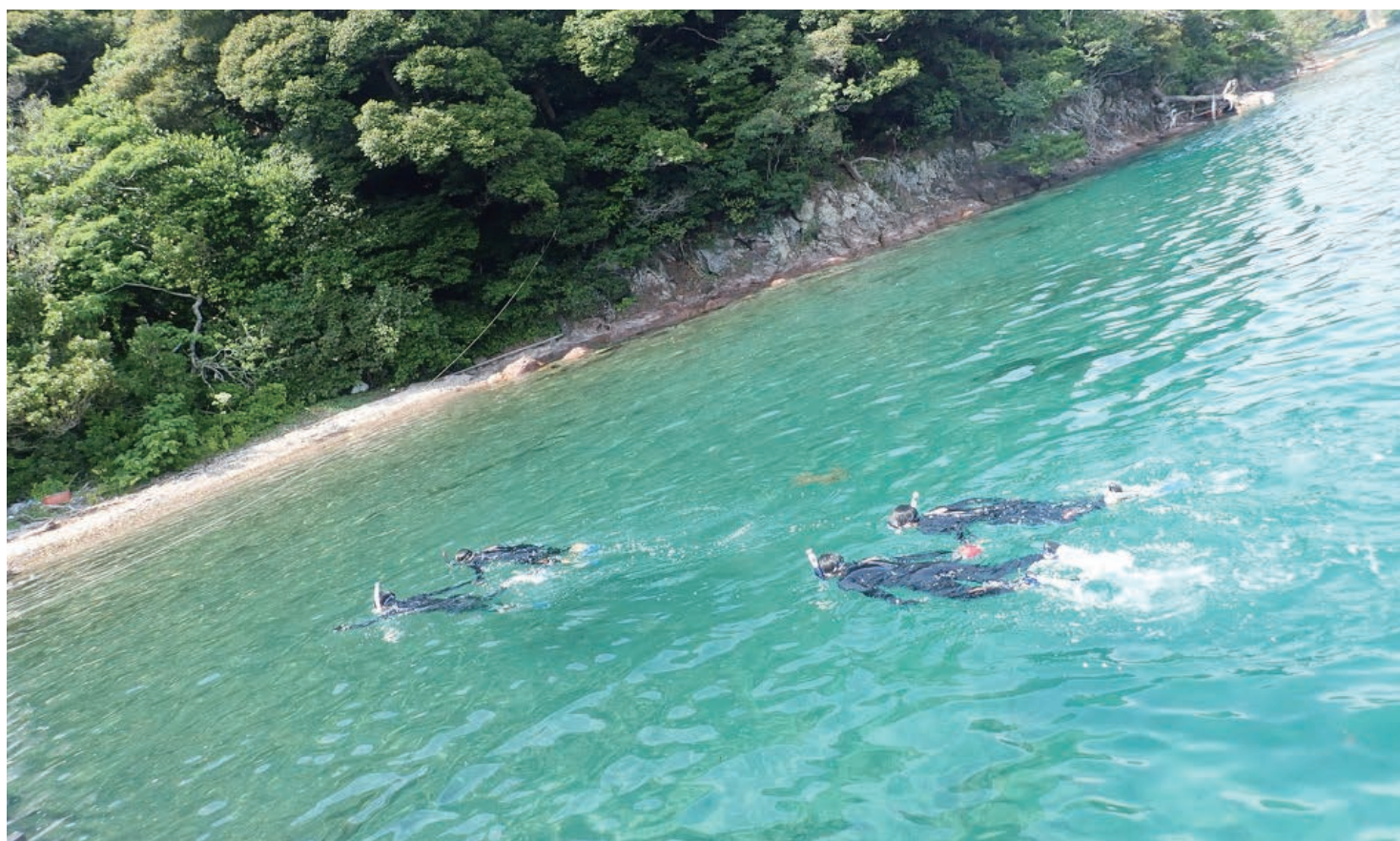
【地域環境工学分野】地域環境工学分野では、自然環境と調和した地域の社会基盤を実現するための研究を行っています。水・土・社会基盤のそれぞれを良好に

保つための技術や考え方、水や物質の循環を把握し改善する手法などの開発を目指しています。



ここにしかない 自然を活かす

[附属生物資源教育研究センター]



■隠岐の島での臨海実習の風景

森林、耕地、海は私たちに不可欠な生活資材や食べ物など様々な生物資源のめぐみを与えるとともに、多様な生物環境を形成しており豊かな人間生活をもたらしています。

附属生物資源教育研究センターは、森林科学部門、農業生産科学部門、海洋生物科学部門の3部門で構成されています。それぞれの部門では、演習林、農場、臨海実験所などの地域を生かした施設を活用して特徴的なフィールド教育研究活動を行っています。さらに、水が山から里、海に流れていくように、森林、耕地、海のための有機的なつながりを意識しながら教養教育、専門教育、さらには社会教育にも積極的に取り組んでいます。

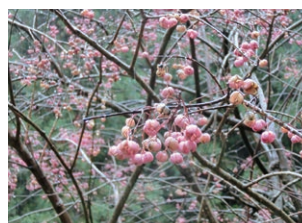
また、自然科学系のみならず人文社会系の学生も履修できる教養科目として「自然と語ろう」を開講しており、特別副専攻プログラムのフィールド教育プログラムを提供しています。さらに他大学生を対象とした公開実習を開講し大学間の教育・研究の連携交流を進めています。



■春の農場開放日で桜の切り花展示



■初夏：三瓶演習林の林縁に咲くアケビの雄花(奥)と雌花(手前)



■秋：匹見演習林の秋、マユミの果実の桃色が暖かい

森林科学部門（三瓶演習林・匹見演習林・松江試験地）

森を訪れ、森を畏れ、森を学ぶ

島根大学には、島根県内に三瓶演習林（大田市と飯南町）、匹見演習林（益田市）、そして松江試験地（松江市）の3ヶ所の演習林があります。

森林科学部門は、下記のように様々な研究活動を演習林において展開しています。さらに島根大学における森林に関する教育研究の実践の場として整備された演習林は、森林学コースや環境生物学コースなどのカリキュラムの中で多くの実習教育と卒業研究に利用されています。

あなたもぜひ、島根大学演習林で新しい発見を！

《演習林の長期研究課題》

- 気象観測
- 広葉樹二次林の長期動態
- 森林における酸性雨の影響
- 樹木の展葉落葉フェノロジー
- 小渓流の流量観測



■三瓶演習林露場に日射計を設置する学生たち

農業生産科学部門（本庄総合農場・神西砂丘農場）

人と環境にやさしい農業とは

農業生産科学部門では、農業の生産性向上のための技術と人や環境との関わりを体験できる実習を行っています。本庄総合農場（15ha）にある水田、畑、ガラスハウスで様々な作物を栽培し、作物の育て方や肥料・農薬の使用量が環境に及ぼす影響を観察しながら農業と環境の関わりについて学びます。毎年約120名の学生が農場実習に参加します。

研究活動はおもに松江市の本庄総合農場と出雲市の神西砂丘農場で行われ、以下のような研究や調査を教員・技術職員・学生が協力して行っています。

- 栽培作物の生産性向上要因の解析
- 土耕・水耕栽培における生理障害の要因解明
- 新しい作型・栽培技術の開発
- 土壌中の有機・無機成分のモニタリング
- 地域資源を用いた加工品の開発



■田植え実習

海洋生物科学部門（隠岐臨海実験所）

日本海のアップフロント・隠岐

海洋生物科学部門は、学外教育研究施設として隠岐の島に3隻の実習船を備えた臨海実験所が設置されています。実験所の利用は全国に開放されており、公開実習など多くの大学生・研究者が全国各地から訪れます。

実験所で行う臨海実習では、海洋生物と環境に直接触れることにより、生物多様性の意味、生物の環境への巧妙な適応戦略、生物と人間生活との関連性を学ぶことができます。海洋で採れる新鮮な実験材料を利用して、海洋の生物多様性、および海産無脊椎動物の生理・発生を体験できます。

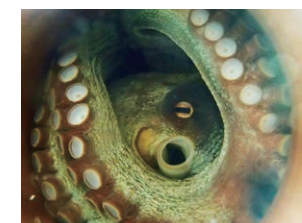
また、隠岐の島は日本海西部の流れる対馬海流の最上流域にあたり、地球温暖化に伴う日本海の生物相の変化を観測するのに適した場所です。本来は生息していなかったヒョウモンダコやヒメカンムリヒトデなど南方系の海洋生物が定着していることが確認され、環境変動を日々感じています。また、大気・海洋を通じて流れ込む汚染物質や海洋ゴミなど、人工的な環境変動の影響が顕著に見られる場所でもあります。日本海をモデルに、環境変動を観測する研究プロジェクトについて、日本海側に面した諸大学と共に環境教育についても展開していきます。



■シュノーケリング練習



■要注意！ギンカクラゲ



■タコツボに入って様子を伺うマダコ



■農業機械の運転実習をしています

自然を究め 持続可能な明日を創る



[大学院自然科学研究科]

COURSE 博士前期課程

自然科学研究科（博士前期課程）は、総合理工学研究科と生物資源科学研究科を融合した平成30年度設置の研究科です。両研究科を統合し、3つの新しい専攻を設置しています。本研究科では確かな専門知識や技術、超スマート社会で主体的な役割を担うための情報技術力、外国語によるコミュニケーション力とグローバルな感性、そして柔軟な発想力を養います。それにより、科学・技術の発展と持続可能な社会の実現に俯瞰的・総合的視点から寄与できる創造性豊かな高度技術者・研究者及びグローバルな視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材を養成します。生物資源科学部の各学科からは、主に環境システム科学専攻（環境共生科学コース）、農生命科学専攻（生命科学コース、農林生産学コース）への進学となります。

生物資源科学部からは主に2つの専攻（環境システム科学専攻・農生命科学専攻）へ進学

環境システム科学専攻



環境と調和した社会への貢献

環境システム科学専攻には、地球科学コース、環境共生科学コース、物質化学コース、建築デザイン学コースが設置されています。本専攻では、地球科学、環境共生科学、化学、建築学の基礎知識を身に付け、その知識を基に、環境と調和したより豊かな社会の構築に貢献する、実践力と創造力を備えた国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。

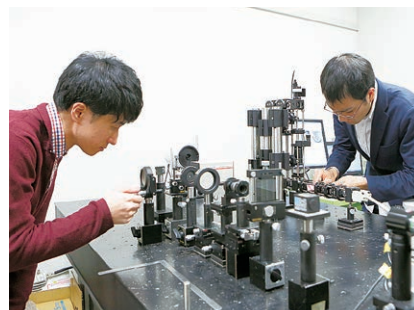
農生命科学専攻



生命科学と農学の発展に貢献

農生命科学専攻には、生命科学コース、農林生産学コースが設置されています。本専攻では、生命機能を科学する能力を備え、農林生産物を活用するための高度な専門知識・技術・課題解決能力を有し、かつ国際感覚に優れ自立的で人間性豊かな高度技術者・研究者を養成します。

理工学専攻



科学技術や社会の創造に貢献

理工学専攻には、先端材料工学コース、数理科学コース、知能情報デザイン学コース、物理・応用物理学コース、機械・電気電子工学コースが設置されています。本専攻では、数理、物理、情報の基礎知識を身に付け、その知識を基に、数理科学、物理学、情報科学、機械工学、電気電子工学、材料工学の発展に寄与し、新たな科学技術や社会の創造に貢献できる国際感覚に優れた高度技術者・研究者を養成します。

教育の特色・カリキュラム

concept & curriculum

自然科学研究科では、研究科共通科目という科目群を新たに設け、その中に、研究科内の各専攻の内容を俯瞰できる概論的科目、英語科目、数理・情報・生物学の基礎を学ぶ科目、研究者・技術者としての教養を身に付ける科目、そして実践的な課題解決能力やグローバルな視野を養成する海外インターンシップ科目などがあります。これにより、理工学、環境システム科学、農生命科学を総合的に学ぶことができ、自然科学系の幅広い教養教育が可能です。学部から大学院を含めた5年間又は6年間の一貫プログラムも設置し、優秀な学生は、5年間で学部・大学院を修了できる道も拓かれます。

MERIT 大学院進学の特典

▶ 技術系、研究系の職業に就きやすくなる

とくに農林生産学科や環境共生科学科において研究系への就職率が顕著に高くなる。生命科学科においても研究職が増加する。

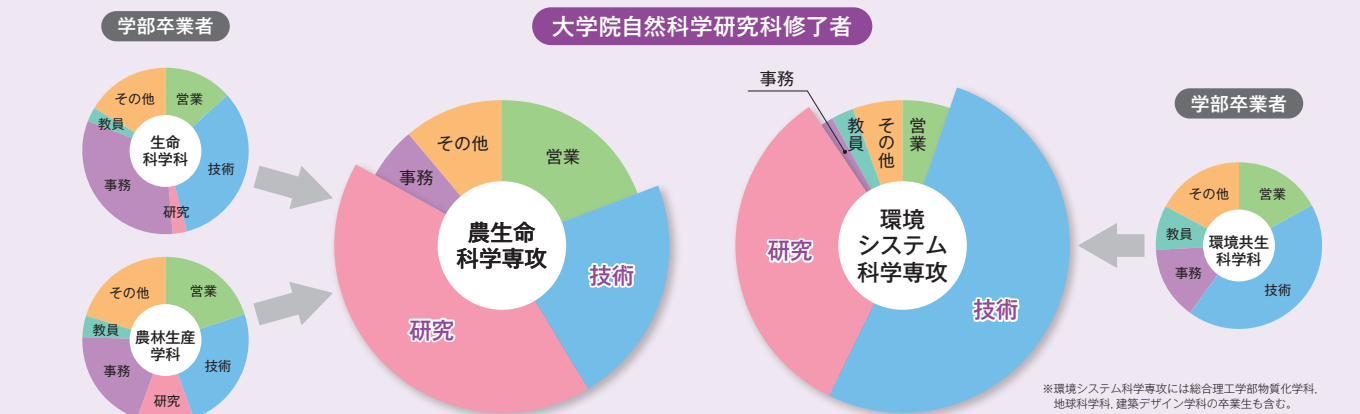
▶ 自分がやり始めた研究が継続でき、追求できる

卒業研究で始めた研究テーマを継続・発展させ、研究成果を自らの力で上げる機会が得られる。それを学会などで発表し、研究の楽しさを味わうことができる。

▶ 自分の将来を考える時間が持てる

学部生時代に単位取得・サークル活動・アルバイトなどで多忙な日々を送っていて、将来自分が本当にやりたい仕事については十分に考えられなかった人は、大学院で自分自身に向き合うことができる。

■就職時の職種の比較(令和4年度)



COURSE 博士後期課程

自然科学研究科（博士後期課程）は、科学技術イノベーションを担う博士人材と広範な理系分野の博士人材を養成するために令和2年度に設置されました。博士後期課程では、「生物」と「非生物」の枠にとらわれない、広い視野を持って新たな分野を切り拓いていける人材を育成するために「創成理工学専攻」の1専攻体制とし、研究科内の各研究分野間に融合教育を推進しています。また、地域社会からのニーズに応える形で整備した博士前期課程における教育研究体制との連続性をもたせるため、創成理工学専攻の教育研究の柱となる領域を「理工学」と「自然環境システム科学」の2つとし、それに対応させて、「理工学コース」と「自然環境システム科学コース」を設置しています。

博士後期課程在学生からのメッセージ

自然科学研究科 創成理工学専攻
博士後期課程1年
島田 真帆 さん
2021年(令和3年)3月 卒業
2023年(令和5年)3月 修了



私は現在、博士後期課程で織毛虫スピロストマムの再生現象について研究をしています。この研究は高校時代から継続して行っている研究で、課程が上がるにつれて様々な技術を用いて研究を進めることができている。現在は、走査型電子顕微鏡(SEM)を用いた観察や、次世代シーケンサーを用いたシングルセルの遺伝子解析などを行っています。

私は高校時代に研究活動の楽しさを知り、これまで同世代の学生や先生方とディスカッションをしながら研究を進めてきました。学部生や大学院生(博士前期課程)の時には学会発表や他大学の研究室との合同ゼミなどを行い、より知識の深い方々や他分野の学生・先生方とのディスカッションもたくさん行いました。その中で自身の研究をより深く追求したいと思うようになり、博士後期課程に進むことにしました。

自分の知識不足を痛感することもあります。これまでの研究で得た知識や実験スキルが身についてきていることを実感することも多く、とても充実した研究生活を送っています。今後も研究活動を続け、自身の研究を更に深めるとともに、学生や一般の方々に対する科学の魅力の普及活動なども行っていきたいと考えています。

修了生からのメッセージ

一般社団法人
隠岐ジオパーク推進機構
生物研究員
立花 寛奈 さん
2021年(令和3年)3月 修了



私は、島根県の離島・隠岐の隠岐ジオパーク推進機構で研究員として働いています。大学院では隠岐でミズナラという植物の分布と生育環境について研究を行っていました。現在の仕事では大学院での研究経験を活かして、隠岐の植物の研究や地域の方と連携した貴重植物の保全活動、教育活動などジオパークの理念や隠岐の魅力を発信するための活動をしています。

大学院は専門分野の研究を進められるだけでなく、その過程で大学内外の研究者や研究フィールドの地域の方と関わることもあり、自分自身の視野が広がるきっかけがたくさんある場所です。ぜひ、研究をはじめ色々なことにチャレンジをして充実した大学院生活を送ってください。

MESSAGE

from STUDENTS!

在学生が語る生物資源科学部

科学する技を磨こう！生物資源科学部の魅力！



原田 歩佳さん

生命科学科
細胞生物学コース 4年生

幅広い学びから「やりたいこと」を見つける

生命科学科には4つのコースがあり、1年次には基礎的な知識を得る講義に加え、セミナーを通して各コースの特徴について十分に理解したうえでコースの選択をします。自分の興味のある分野を見つけるための時間が多くあることは大きな特徴だと感じます。

2年次でのコース選択後には、より専門的で様々な実験を行うようになります。今まで教科書でしか見たことがなかったことを、実際に手を動かし、自分の目で確かめることができるのは、高校生とは大きく異なる点であり、本学科で勉強をする楽しさの一つでもあると思います。

大学では自由に選択できる場面が多いからこそ、自分の視野を広げられる機会も多くあります。本学科で積極的にたくさんのことに興味を持って挑戦し、充実した学生生活を送ってください。



藤本 賢和さん

農林生産学科
農業経済学コース 4年生

新たな発見に満ちた学生生活

農林生産学科には4つのコースがあり、それぞれが個性豊かな研究を行っています。1年次は各コースの基礎となる知識を身につける期間ですが、自分が何に興味があり、どのコースに進みたいのか考える期間でもあります。やりたいことがまだ分からないとしても、焦る必要はありません。

2年次以降はコース分属が行われ、それぞれのコースでより専門的なことを学んでいきます。私が所属している農業経済学コースは農業経済学や農業経営学など、農業を社会科学の面から学ぶ点が最大の特徴であり、他では中々味わえない経験です。フィールドワークの機会も豊富で、実際に農村に行って農作業の体験や調査を行うことができます。

私は、大学生活の魅力は私たちに新しい知識を与え、視野を広げてくれることだと思っています。日々の学びの中で今までの認識が変わることも十分にあり得ます。そうした気付きの中から皆さんの興味のあることがきっと見つかります。皆さんの中にある好奇心と、挑戦したいという意思を大切にしてください。本学科での学びが応えてくれるでしょう。



朝木 翔子さん

環境共生科学科
生態環境学コース 3年生

学びたいキーワードを決めよう！

環境共生科学科では、野外・学内実習や実験を通して幅広い知識を得ることができます。また、2年次からは4つのコースに分属されるため、1年生の間に自分がもっと知りたい、学びたいと思った分野を専門的に学ぶことができます。

私が所属している生態環境学コースでは、汽水域、土壌圏、森林などそれぞれのフィールドでの生態系や生物などについて学んでいます。私自身、入学当初は“土壌”、“水質浄化”をキーワードとして研究していきたいと考えていましたが、授業が進むにつれて森林での物質の循環や土壌の働きにも興味湧いたため、“森林”を学びたいキーワードとして授業選択や自分に合った研究室を探す際の参考にしました。

大学での学びを始めるにあたって、皆さんも自分が大事にしたい、学びたいキーワードを決めてみてください。わからないことや不安なことがあっても軸をしっかりと持っていればきっと充実した大学生活を送ることができるはずです。4年間で自分の中にある興味に触れ、学ぶ経験がこれまでとは違った景色を見せてくれるかもしれません。



【学びたい！】を形に

皆さんは、生命科学についてどのようなイメージが有りますか？

農学？理工学？とさまざまなイメージが有ると思いますが、本学科では生物や物理化学などに関連した幅広い分野から、生物や生命に関わる研究を行っています。1年次には、高校の時に習った知識を基本に生物をはじめ物理、化学についてより深く学んでいき、2年次には4つのコースから自分が興味を持ったコースを1つ選択します。コース選択後、1年次に学習したことを踏まえたさまざまな学生実験が始まります。はじめは、実験操作について慣れないことが多いと思いますが、1つ1つ丁寧に実践することで理解する楽しさが増えていきます。3年次後期には、研究室に配属され、自分の卒業研究のテーマを決めます。私の所属する研究室では、友人含めて先輩達、先生とコミュニケーションをとりながら、楽しく研究活動を行っています。本学科では、講義だけではなく実験も多いため、知識だけではなく実践的な経験も多く得られます。入学当初は具体的にやりたいことが見つからなくても、きっと皆さんも学びたいことが見つかるはずです！



谷岡 優さん

生命科学科
食生命科学コース 4年生

見方を変えれば、世界が変わる

農林生産学科では、1年次に座学や実習を通して、森林学、園芸植物科学、資源作物・畜産学、農業経済学を幅広く学び、2年次に4つの教育コースに分かれます。この学科の魅力は、文理の垣根を超えた学びができることです。理系科目だけでなく、文系科目も学習し、様々な視点を得ることができます。また、理論と実践の両方を大切にしている学科だと感じます。豊かな自然に恵まれた島根の土地を活かし、研究に集中できる環境が整っています。

私は農業経済学コースに所属しています。社会科学の視点から食と農の問題に向き合い、都市農村問わず、持続可能な地域社会の創造を目指す学問です。高校生の時は農林水産業の課題ばかりに注目していました。しかし、食料生産をはじめ、洪水や土砂崩れを防ぐ、暑さを和らげ、大気をきれいにするといった農林水産業がもたらす恩恵は多岐にわたることを学び、農林水産業に対する印象が大きく変化しました。今では可能性に溢れる産業だと考えています。

何事も捉え方一つです。大学という恵まれた環境を最大限活用し、可能性を広げてください。



石倉 愛実さん

農林生産学科
農業経済学コース 3年生

自分の「興味」と向き合おう

生物資源科学部では分子レベルから生態系まで非常に多くの分野を扱っています。

環境共生科学科では生物、資源利用、生態系といった大きな分野を学ぶことができます。一年生で基礎を学び、二年生から本格的にコースが分かれていくため入学時に自分の学びたいことがハッキリしていなくても大丈夫です。

私は水環境に生息する昆虫に非常に興味があり昆虫学を学ぶために大学に来ましたが、考えが変わり今では昆虫たちをとりまく生態系について勉強したいと思い、生態環境学コースで主に水圏を中心とした生態学を学びました。どのコースでもフィールドワークを含む授業が多く実際の自然に赴くことで座学では味わえない、五感を使いながら学ぶという経験ができるのも本学部の魅力です。

大学は実に多種多様な学問を学べる場です。是非自分の専門だけでなく他の分野も覗いてみてください。そして自分の専門分野には貪欲に、尽きることのない好奇心を持ってください。学んでいくうちに自分の考えを変えてくれたり、より洗練してくれたりする何かに出会えるチャンスが生物資源科学部には絶対にあるはずです。



佐々木 岳さん

環境共生科学科
生態環境学コース 4年生

研究紹介

科学の謎に挑戦！

Zoom up! STUDY!

個性豊かな教員が学生と一体となり、
様々な研究に取り組んでいます

施設園芸学



農林生産学科
園芸植物科学コース

田中 秀幸 准教授

植物がもつ能力を
最大限引き出すためには

施設園芸学とは、光や温度といった環境を制御することで、作物の生育を最適化またはコントロールすることを目的とした学問です。私は、施設園芸においてサクラの開花制御やトマトの機能性強化を研究しています。サクラの花芽は夏に形成が始まり、秋になり日長や気温が低下すると花芽発達が停止して休眠に入ります。そして春になると休眠から目覚めて一斉に開花するのですが、その休眠に入るための条件や休眠から覚める条件はまだ分かっていません。これらのメカニズムを理解することが出来れば、どの季節でもサクラを開花させることが可能になります。トマトは現在、施設園芸の発展により一年中スーパーで売られていますが、もっと美味しく、もっと健康によいトマトを環境制御により作り出すことは可能かもしれません。なぜなら、まだ我々は植物が持つ能力をすべて引き出せていないからです。好きな花をいつでも鑑賞できたり、美味しく健康に良いものがスーパーで簡単に購入できるような技術が開発できればと思っています。



森林生態学



環境共生科学科
環境生物学分野

藤巻 玲路 助教

水質をととのえる
森のはたらき

雨で降ってくる水にはちりや汚染物質が混じっています。ですから、そのままでは飲む気がおきません。しかし、森の中を流れる水はきれいで美味しそうに見えませんか？ 森に降る雨は、葉や枝に触れて地面にとどき、土にしみこみ、やがて湧き出て川に流れます。このプロセスの間に水に溶けている成分に変化がおきます。これを森林の水質調整機能と呼びます。この機能がどの様に発揮されるのかを明らかにすることが私の研究です。近年、人為的な汚染源の無い森林でも富栄養化物質である窒素が流出していることが報告され始めています。しかし、人工林を間伐したり下層植生の繁茂を調節することで、窒素の流出が生じにくくなるのが分かってきました。つまり、森林を適切に管理することで、水質調整機能が改善することを示しています。島根は面積の約78%が森林で、日本の中でも大きな森林面積割合を持つ県です。しかし、身の回りに広がる森の働きにも分からないことがまだまだ多く、研究のしがいがあります。



進化発生学

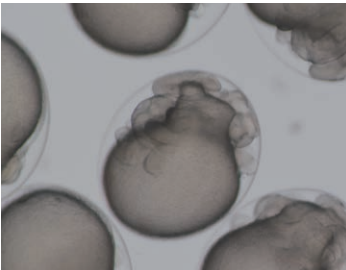


附属生物資源教育研究センター
海洋生物学部門

小野 廣記 助教

頭足類のユニークな形態は
いかにして進化してきたのか？

私は生き物の多様な形態がどのようにして進化してきたのかを明らかにするために、動物種間での胚発生の比較をもとにして、新たな形態的特徴をもたらし遺伝的なバックグラウンドの解明を試みております。私の研究室で扱っている頭足類（イカやタコ）は軟体動物の一群でありながら非常に発達した神経系などユニークな体制を持ち、このような形態的特徴はご存じの通りの高い運動性や複雑な行動に役立っていることが考えられます。しかし、頭足類は飼育や繁殖が難しいため胚発生に関する知見が乏しく、いまだに形態進化に関しては多くのことがわかっておりませんでした。そこで、隠岐臨海実験所という地の利を生かして小型のイカやタコの飼育・繁殖系を立ち上げ、これまで胚の構造の研究から頭足類の消化管や血管系といった内部形態に関する発生的知見を蓄積してきました。さらに現在は胚発生期における遺伝子発現解析を進めており、謎の多い頭足類の形態進化の理解に貢献できることを期待しております。



教員紹介

生命科学科		
赤間 一仁 教授〈植物分子生物学〉	松崎 貴 教授〈毛髪生物学〉	高原 輝彦 准教授〈動物生理生態学〉
荒西 太士 教授〈遺伝生態学〉	丸田 隆典 教授〈植物生理生化学〉	西村 浩二 准教授〈植物分子細胞工学〉
石川 孝博 教授〈応用生物化学〉	室田佳恵子 教授〈食品代謝機能学〉	松尾 安浩 准教授〈微生物機能学〉
川向 誠 教授〈遺伝子工学〉	山本 達之 教授〈生命分子分光学〉	舞木 昭彦 准教授〈理論生態学〉
児玉 有紀 教授〈共生生物学〉	池田 泉 准教授〈生命有機化学〉	吉清 恵介 准教授〈分子認識工学〉
塩月 孝博 教授〈生物制御化学〉	石田 秀樹 准教授〈原生生物学〉	秋廣 高志 助教〈植物細胞生物学〉
清水 英寿 教授〈栄養・病態生理学〉	小川 貴央 准教授〈植物分子生理学〉	須貝 杏子 助教〈島嶼生物学〉
西川 彰男 教授〈動物発生生物学〉	戒能 智宏 准教授〈応用微生物学〉	ヌータラバティ・ヘマンズ 助教〈生命分子分光学・生命分析化学〉
広橋 教貴 教授〈発生生物学〉	地阪 光生 准教授〈食品機能学〉	山口 陽子 助教〈動物生理学・比較内分泌学〉

農林生産学科		
浅尾 俊樹 教授〈施設園芸学〉	氏家 和広 准教授〈作物生理学〉	米 康充 准教授〈森林リモートセンシング学〉
一戸 俊義 教授〈動物生産学〉	門脇 正行 准教授〈作物学〉	足立 文彦 助教〈作物生産学〉
江角 智也 教授〈園芸生理機能学〉	小林 和広 准教授〈作物生産学〉	城 惣吉 助教〈土壤微生物学〉
太田 勝巳 教授〈園芸発育調節学〉	高橋絵里奈 准教授〈森林計画学〉	宋 相憲 助教〈動物生理学〉
小林 伸雄 教授〈園芸育種学・花き園芸学〉	田中 秀幸 准教授〈施設園芸学〉	中間由紀子 助教〈農政学〉
松本 敏一 教授〈果樹園芸学・園芸利用学〉	中務 明 准教授〈園芸分子育種学〉	ロザリア・ナタリア・セレーキー 助教〈アグリバイオビジネス学〉
吉村 哲彦 教授〈森林利用学・森林情報学〉	森 佳子 准教授〈農業経営学〉	
池浦 博美 准教授〈園芸植物利用学〉	保永 展利 准教授〈地域経済学〉	

環境共生科学科		
石井 将幸 教授〈地域基盤工学〉	泉 洋平 准教授〈害虫管理学〉	佐藤 真理 助教〈地盤材料工学〉
上野 誠 教授〈植物病理学〉	久保満佐子 准教授〈森林生態学〉	清水 加耶 助教〈昆虫生態学〉
喜多威知郎 教授〈水・緑利用工学〉	倉田 健悟 准教授〈汽水域生態学〉	長門 豪 助教〈環境動態学〉
木原 淳一 教授〈植物病理学〉	佐藤 邦明 准教授〈土壤園生生態工学〉	林 昌平 助教〈微生物生態学〉
桑原 智之 教授〈水圏生生態工学〉	巢山 弘介 准教授〈土壤微生物学・農業環境科学〉	深田耕太郎 助教〈土壤環境工学〉
武田 育郎 教授〈水利環境工学〉	長縄 貴彦 准教授〈土壤園生生態工学〉	藤巻 玲路 助教〈森林生態学〉
増永 二之 教授〈土壤園生生態工学〉	橋本 哲 准教授〈森林水文学〉	吉岡 有美 助教〈流域環境工学〉
宮永 龍一 教授〈昆虫生態学〉	木原 康孝 講師〈農地環境工学〉	李 治 助教〈生物環境情報工学〉
谷野 章 教授〈生物環境工学〉	上野 和広 助教〈水循環設計工学〉	
山口 啓子 教授〈水圏生態学〉	佐藤 裕和 助教〈河川工学〉	

附属生物資源教育研究センター		
〔森林科学部門〕	〔農業生産科学部門〕	〔海洋生物学部門〕
山下 多聞 准教授〈森林環境学〉	松本 真悟 教授〈土壤学・作物栄養学〉	吉田 真明 准教授〈進化ゲノム生物学〉
		小野 廣記 助教〈進化発生学〉

■学科別・日程別募集人員

学 科 名	募 集 人 員							合 計	帰 国 生 抜 選
	一 般 選 抜		総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」						
	前期日程	後期日程	一 般 型	特 定 型					
				地域志向 (島根県・鳥取県枠)	地域志向 (全国枠)	専門高校	グローバル英語		
生 命 学 科 科	40	6	19	8	3		3	70	若 干 名
農 林 生 産 学 科 科	31	5	15			5		60	若 干 名
環 境 共 生 科 学 科 科	35	11	14			5		70	若 干 名
計	106	22	48	8	3	10	3	200	若 干 名

※1. いずれも、詳細は入学者選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
※2. へるん入試特定型の地域志向(島根県・鳥取県枠)、地域志向(全国枠)及びグローバル英語は、学部全体での募集人員です。

■入試方法

区 分	一 般 選 抜		総 合 型 選 抜 I 「へるん入試」					帰 国 生 抜 選
	前期日程	後期日程	一 般 型	特 定 型				
				地域志向 (島根県・鳥取県枠)	地域志向 (全国枠)	専門高校	グローバル英語	
試 験 内 容	大学入学 共通テスト ＋ 個 別 学 力 試 験	大学入学 共通テスト ＋ 面 接	【第1次選考】 出 願 書 類 による選考 【第2次選考】 読解・表現力試験 ＋ 志望理由書を用いた「面接」 ＋ 地 域 志 向 レポートに基づく 「地域志向面接」 ＋ 出 願 書 類	読解・表現力試験 ＋ 志望理由書を用いた「面接」 ＋ 地 域 志 向 レポートに基づく 「地域志向面接」 ＋ 出 願 書 類	読解・表現力試験 ＋ 志望理由書を用いた「面接」 ＋ 地 域 志 向 レポートに基づく 「地域志向面接」 ＋ 出 願 書 類	読解・表現力試験 ＋ 志望理由書を用いた「面接」 ＋ 専門教科の評定及び 専 門 教 科 に 関 連 する 資 格 ・ 検 定 ＋ 出 願 書 類	読解・表現力試験 ＋ 志望理由書を用いた「面接」 ＋ 英語資格・検定試験 ＋ グローバル英語入試 志望理由書に基づく 「英語面接」 ＋ 出 願 書 類	読解・表現力試験 ＋ 面 接

※1. 各学科が大学入学共通テストにおいて課す教科・科目、個別学力試験の科目、配点等については、入学者選抜要項、学生募集要項等をご参照ください。
※2. へるん入試、一般型の第1次選考は、志願者数が募集人員の概ね3倍を超えた場合に実施することがあります。

■3年次編入学

学 科 名	募 集 人 員	入 試 方 法
生 命 学 科 科	合 計 15名	面 接 及 び 口 頭 試 問
農 林 生 産 学 科 科		
環 境 共 生 科 学 科 科		

※2023年6月10日(出)に実施しました。

入試情報に関する問い合わせ先

●入学者選抜要項等の請求先
島根大学入試課
TEL 0852-32-6073
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 FAX0852-32-9726
[E-mail] epd-nnyushi@office.shimane-u.ac.jp

●入試情報の提供
<https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

学部・学科の
案内動画を
掲載しています！



[学部HP]



2023年は
来校型・WEB型
を併用した
オープンキャンパス実施！

〈来校型〉8/3[Ⓜ]
大学ホームページから
お申込みください。

■令和5年度入試 実施状況

学 部	区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	入 学 者 内 訳 (%)						
							男	女	県内	県外	現役	既卒	その他
生物資源科学部	前	106	114	111	106	125	60.4	39.6	23.3	76.7	87.6	11.9	0.5
	後	22	121	34	31								
	欠2	(1)	27	27	2	2							
	総I	72	108	106	75	75							
	帰国	若干名	0	0	0	0							
	計	200	370	278	214	202							

注. 「前」…前期日程, 「後」…後期日程, 「欠2」…欠員補充第2次募集, 「総I」…総合型選抜I「へるん入試」(センター試験を課さない), 「帰国」…帰国生選抜

■一般入試

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生物資源科学部	生 命 学 科 科	前	40	37 (21)	36 (20)	36 (20)	42 (20)
		後	6	43 (23)	11 (5)	11 (5)	
	農 林 生 産 学 科 科	前	31	28 (13)	28 (13)	28 (13)	33 (15)
		後	5	23 (13)	8 (3)	8 (3)	
	環 境 共 生 科 学 科 科	前	35	49 (12)	47 (11)	42 (9)	50 (13)
		後	11	55 (16)	15 (5)	12 (5)	
	計		128	235 (98)	145 (57)	137 (55)	125 (48)

注. ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

■総合型選抜I「へるん入試」

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生物資源科学部	生 命 学 科 科	一般	19	23[13] (9[6])	23[13] (9[6])	19 (9)	19 (9)
		一般	15	8[27] (4[12])	8[25] (4[10])	15 (8)	15 (8)
	農 林 生 産 学 科 科	専門	5	17 (6)	15 (4)	6 (2)	6 (2)
		一般	14	17[18] (5[4])	17[18] (5[4])	14 (3)	14 (3)
	環 境 共 生 科 学 科 科	専門	5	9 (3)	9 (3)	7 (3)	7 (3)
		一般	8	14 (7)	14 (7)	8 (5)	8 (5)
	全 学 科	山陰	3	14 (5)	14 (5)	3 (1)	3 (1)
	全 学 科	全国	3	6 (1)	6 (1)	3 (1)	3 (1)
	全 学 科	英語	3	6 (1)	6 (1)	3 (1)	3 (1)
計			72	108 (40)	106 (38)	75 (32)	75 (32)

注1. ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。
注2. 【 】内はへるん入試特定型出願者のうち一般型併願者の数を示し、それぞれ外数である。
注3. 「一般」…一般型, 「専門」…特定型 専門高校入試, 「山陰」…特定型 地域志向入試(島根県・鳥取県枠), 「全国」…特定型 地域志向入試(全国枠), 「英語」…特定型 グローバル英語入試

■帰国生選抜

学 部	学 科	区分	募集人員	志 願 者	受 験 者	合 格 者	入 学 者
生物資源科学部	生 命 学 科 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	農 林 生 産 学 科 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	環 境 共 生 科 学 科 科	—	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	計	—	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

注. ()内は女子の数を示し、それぞれ内数である。

就職への強力な支援体制

職種に応じた就職セミナーや面接指導、
資格取得プログラムの実施

大学教育センター（キャリア担当）が企画するキャリア・就職ガイダンスや面接練習などの実践指導に加え、在学生の保護者で組織される後援会の支援を受けて、環境庁や企業、就職コンサルタントから講師を招いた学部、学科独自の就職セミナーを実施しています。このセミナーの講師には本学部の卒業生も多く、個々の学生の希望や適性に応じた親身な指導を行っています。また、教員免許や学芸員、技術士補など、各種の資格を得るための教育プログラムも充実しています。また、各学科に就職担当の教員を配置し、求人情報の提供や就職活動に対するアドバイスなどをいつでも受けられるようきめ細やかな指導を行っています。



学部卒業後の主な就職先・進学先

■生命科学科（生命工学科含む）

【企業】アヲハタ株式会社、サラヤ株式会社、広島森永乳業株式会社、全国農業協同組合連合会岡山県本部（JA全農おかやま）、マエダ薬品商事グループ、YKK AP株式会社、株式会社 あじかん、株式会社 山陰合同銀行、株式会社 島根富士通、日本山村硝子株式会社、イノチオグループ、山陰クボタ水道用材株式会社、医療法人秋月会 広島中央通り香月産婦人科、古賀文敏ウイメンズクリニック、株式会社 エステム、株式会社 カイハツ、株式会社 システムリサーチ、株式会社 ソフィア、D&X、株式会社 ホープス、日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社（NCD）、ダイキョーニシカワ株式会社

【公務員】加東市職員、境港市職員、広島市職員、香川県立津田高等学校、佐賀県職員、松江市職員、島根労働局、陸上自衛隊

【教員】島根県公立学校

【進学先】島根大学大学院自然科学研究科、島根大学大学院人間社会科学研究科、京都大学大学院、京都工芸繊維大学大学院、九州大学大学院

■農林生産学科

【企業】株式会社サカタのタネ、全国農業協同組合連合会（JA全農）、アルファード食品株式会社、株式会社ユニバーサル園芸社、日本甜菜製糖株式会社、名糖産業株式会社、ファーマインド、わらべや日洋株式会社、作州かがみの森林組合、三次ワイナリー、谷尾食糧工業株式会社、株式会社児湯湯食鳥、合同会社GRAY SCALE、株式会社イズミ、株式会社コスモス薬品、株式会社商工組合中央金庫（商工中金）、株式会社広島銀行、山陰酸素工業株式会社、山陰ビデオクラフト有限公司、株式会社太陽建設コンサルタント、株式会社放電精密加工研究所、株式会社セブテーニ、株式会社赤ちゃん本舗、日研トータルソーシング株式会社、スタッフサービスグループ

【公務員】島根県職員、鳥取県職員、松江市職員、米子市職員、草津市職員、出雲農林高等学校、南伊豆町地域おこし協力隊、島根県警察、高松地方裁判所

【教員】山梨県公立学校、石川県公立学校

【進学先】島根大学大学院自然科学研究科、九州大学大学院、広島大学大学院

■環境共生科学科（地域環境科学科含む）

【企業】カネコ種苗株式会社、株式会社荒谷建設コンサルタント、西田工業株式会社、西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社、みのる産業株式会社、玉名農業協同組合、環境コントロールセンター、東洋産業株式会社、日興建材有限会社、EP総合、株式会社JR西日本ホテル開発、山陽SC開発株式会社、生活協同組合まねね、中国電力株式会社、株式会社テリロジー、ランスタッド、株式会社山陰合同銀行、笠岡信用組合

【公務員】農林水産省（植物防疫所）、国土交通省中部地方整備局、都道府県職員（鳥取県、岡山県、山口県）、市町村職員（広島市、藤枝市）

【教員】岡山県・岡山市公立学校（高等学校教諭等）、大阪府私立学校・大阪私立中学校高等学校、大分県公立学校

【進学先】島根大学大学院自然科学研究科、北海道大学大学院、名古屋大学大学院、神戸大学大学院、兵庫県立大学大学院、岡山大学大学院、九州大学大学院

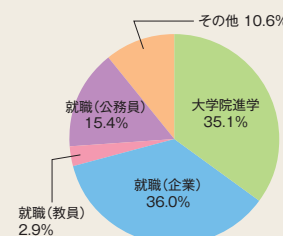
大学院進学を応援

生物資源科学部で学んだ後は、より高度な研究に取り組み、高い技術と専門的な知識を深めることができる自然科学研究科への進学を推奨しています。大学院で学ぶことにより、さらに学問の深みを知り、学会発表や論文作成を通して、自身の研究成果を発信する機会が得られ、自分の能力を大きく磨くことができます。希望者は、大学院の授業を学部生の時に聴講することができ、大学院で研究に集中できる時間が作れ、早めの就職活動が可能になります。大学院生は学生指導をするティーチングアシスタントや研究補助をするリサーチアシスタントの業務をすることで収入を得ることができます。大学院を修了した後はより専門的な職種に就くことができます。

大学院修了後の主な就職先

【企業】カネコ種苗株式会社、株式会社大和青果センター、三機工業株式会社、株式会社フソウ、株式会社Foresters PRO、株式会社山陰中央新報社、株式会社エコロ・インターナショナル、わらべや日洋ホールディングス株式会社、日本コーンスターチ株式会社、皇漢堂製薬株式会社、扶桑薬品工業株式会社、WDB株式会社 エウレカ社、株式会社メガネトップ、湧永製薬株式会社、医療法人社団ミオ・ファティリティ・クリニック、鳥取サイエンス株式会社（広島和光株式会社のグループ会社）、株式会社新日本科学、大塚食品株式会社、ウシオ電機株式会社、株式会社ナブラ、丸善製薬株式会社、OATアグリオ株式会社、株式会社ザイエンス、株式会社リバネス、株式会社伊藤園、JALしなね島根県農業協同組合、株式会社トウホウ、揖斐川工業株式会社、兵庫西農業協同組合（JA兵庫西）、アドバンテック株式会社、株式会社ワールドインテック、エムシー・ファーティコム株式会社、全農サイロ株式会社、ローソン

■島根大学生物資源科学部卒業者の進路（令和4年度）

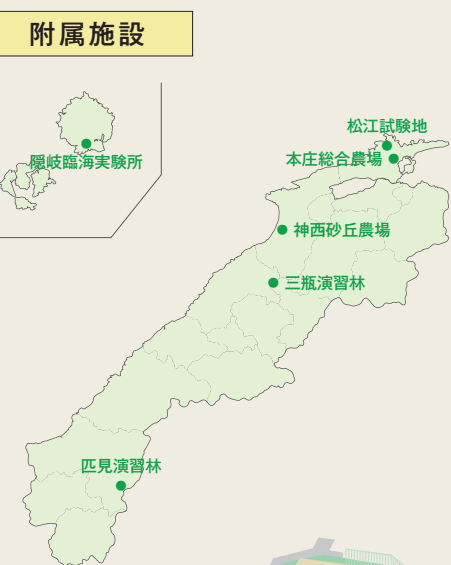


水の都・松江にある島根大学松江キャンパスはJR松江駅からバスで約20分

松江市略図



附属施設



大学構内図〈松江キャンパス〉

- 1 生物資源科学部1号館
- 2 生物資源科学部2号館
- 3 生物資源科学部3号館

- | | |
|-------------|---------------|
| ④教養講義室棟 | ⑫法学部棟 |
| ⑤附属図書館 | ⑬教育学部棟 |
| ⑥学生センター | ⑭人間科学部棟 |
| ⑦学生支援センター | ⑮総合理工学部1号館 |
| 大学教育センター | ⑯総合理工学部2号館 |
| ⑧保健管理センター | ⑰総合理工学部3号館 |
| ⑨学生食堂 | ⑱次世代たたら協創センター |
| ⑩学生会館（生協） | ⑲本部棟 |
| ⑪総合情報処理センター | ⑳学生市民交流ハウス |

周辺おすすめスポット



松江城

松江のシンボルで、屋根が千鳥が羽根を広げたように見えることから、「千鳥城」とも呼ばれます。平成27年7月、国宝に指定されました。



八重垣神社

八岐大蛇を退治した素戔鳴尊と稲田姫が新居を構えた場所であることから、「縁結び」の神社として知られています。「鏡の池」では縁の運速を占うコイン占いができます。



島根県立美術館

宍道湖畔に建つ“水との調和”をテーマにした美術館です。水をテーマにした国内外の絵画を収集展示しているほか、島根ゆかりの作家の作品などを展示しています。

アクセス

※時間はあくまで目安です。

飛行機

- ▶ 東京(羽田)―出雲……………約1時間25分
 - ▶ 大阪(伊丹)―出雲……………約 50分
 - ▶ 名古屋(小牧)―出雲……………約1時間
 - ▶ 仙台―出雲……………約1時間30分
 - ▶ 静岡―出雲……………約1時間15分
 - ▶ 福岡―出雲……………約1時間 5分
- ※出雲縁結び空港から連絡バス松江行(約35分) JR松江駅下車
- ▶ 東京(羽田)―米子……………約1時間20分
- ※米子鬼太郎空港から連絡バス松江行(約45分) JR松江駅下車

JR

- ▶ 東京―〈新幹線〉―岡山―〈特急やくも〉―松江……………約6時間10分
- ▶ 名古屋―〈新幹線〉―岡山―〈特急やくも〉―松江……………約4時間30分
- ▶ 大阪―〈新幹線〉―岡山―〈特急やくも〉―松江……………約3時間50分
- ▶ 福岡―〈新幹線〉―岡山―〈特急やくも〉―松江……………約4時間30分
- ▶ 岡山―〈特急やくも〉―松江……………約2時間35分

高速バス

- ▶ 東京―松江……………約10時間25分
- ▶ 大阪―松江……………約 4時間40分
- ▶ 岡山―松江……………約 3時間10分
- ▶ 広島―松江……………約 3時間20分
- ▶ 福岡―松江……………約 8時間

JR松江駅から島根大学まで

- 〈市営バス〉▶ 北循環線内回り 島根大学前下車……………約15分
- ▶ 島根大学・川津行 島根大学前下車……………約20分
- ※他に「平成ニュータウン行」「あじさい団地行」「東高校行」などがあります。
- 〈一畑バス〉▶ 美保関ターミナル行 島根大学前下車……………約20分
- ▶ マリンプラザしまね行 島根大学前下車……………約20分

島根大学生物資源科学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
TEL 0852-32-6493 FAX 0852-32-6125
<https://www.life.shimane-u.ac.jp/>

